

国内金利 : 0.2%~0.25%での推移

株式市場 : 上昇基調を維持

J-REIT : 2,000ポイント付近での推移

外国為替 : 円安ドル高の推移

日米主要経済指標、ご留意事項

マネーマーケットあらかると

8.26「ジャクソンホール会議」

ジャクソンホール会議とは、米国のカンザスシティ連邦準備銀行によって米国ワイオミング州のジャクソンホールで毎年8月に開催される経済シンポジウムです。1982年に初めて開催され、もともとは小さな勉強会でしたが、次第に、各国の中央銀行総裁が金融政策の方向性などを伝える場として利用されるようになりました。2010年には、当時のバーナンキFRB(米連邦準備制度理事会)議長が金融政策の変更(量的金融緩和第2弾に踏み切ることを示唆する講演を行い、金融市場に大きな影響を与えました。それ以降も、金融政策の転換点となることがあったことから、金融市場では毎年注目されています。

今年のジャクソンホール会議では、インフレの抑制のために急速な金融引締めを行っていた米国の金融政策の行方に関心が集まっていました。こうした中、8月26日の同会議で、パウエルFRB議長は「(インフレ抑制に向けた政策を)やり遂げるまでやり続けなければならない」、「歴史は時期尚早な金融緩和を強く戒めている」などと述べ、金融引締め(利上げ)を長期にわたって続けていくことを示唆しました。一方、金融市場では一部の経済指標からインフレのピークアウトや景気後退の兆候が見えてきたことなどから、FRBが金融引き締めを弱めるとの予想がありました。そのため、パウエル議長の講演は市場の予想に反した内容だったことから、米国市場では金融引締めの長期化による景気減速への警戒感が強まり、NYダウ株価指数は前日比1008ドル安と急落しました。今後についても、物価や景気の動向に関心が高まる中、経済指標やFRB高官の発言次第で揺れ動く可能性が高いため、相場の変動には注意が必要でしょう。(清野)

マネーマーケットマンスリーは経済、金利、為替、株価についての情報提供を目的として作成したもので、取引等の勧誘を目的としたものではありません。

また、金融商品取引契約の締結の勧誘に使用するものではありません。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

※本資料の使用に際し、最終ページを必ずご覧ください。

(2022.8.29 作成)

資金証券部 TEL: 042-526-7740



国内金利

■要約&ポイント

- 8月は海外の資源価格の上昇や海外中央銀行の当局者の発言で、金利は前月より上昇
- 9月は海外中央銀行の利上げ継続により、海外金利の上昇を想定
- その一方、日銀の金利上昇抑制により、国内金利は0.2%~0.25%での推移を予想

■8月の動き(1日~29日)

～小幅に上昇～

【変動幅】

0.200%

～

0.245%

8月の10年国債利回りは小幅に上昇した。月の後半にかけて欧州を中心に資源価格が上昇したことや、海外中央銀行の当局者がジャクソンホール会議で金融引き締め姿勢を改めて示したことなどから世界的に金利も上昇し、国内金利も上昇した。
(29日時点の10年国債利回りは0.240%、先月末比0.065%上昇)

■9月見通し

～0.2%~0.25%での推移～

【予想レンジ】

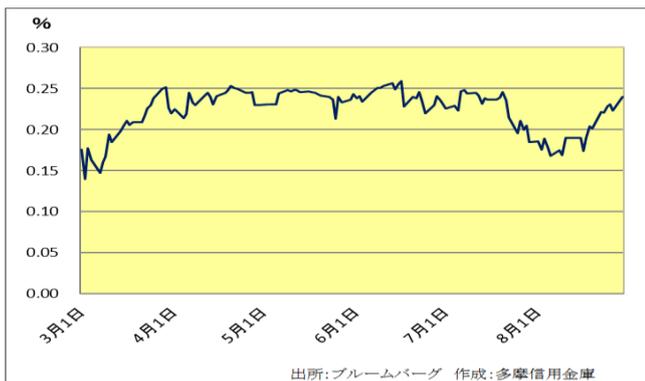
0.200%

～

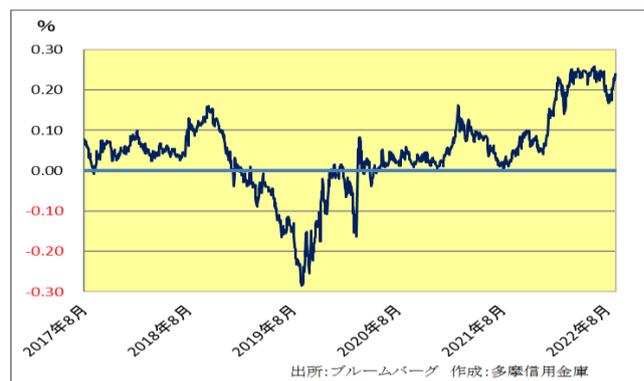
0.250%

8月下旬に開催されたジャクソンホール会議で、FRB(米連邦準備制度理事会)のパウエル議長は、利上げ継続によるインフレへの対応を改めて示した。そのため、金融引き締めの長期化が予想されることから、海外金利を中心に上昇が見込まれる。その一方で、同じ会合に出席した日銀の黒田総裁は「金融緩和策を維持する必要がある」と発言しており、日銀の指値オペ等により金利の上昇を抑制することが予想されることから、国内金利は0.2%~0.25%で推移するだろう。

【国内長期金利チャート(6か月)】



【国内長期金利チャート(5年)】



■今月の注目経済指標

～GDP (国内総生産)～

2022年4-6月期における実質GDP成長率の1次速報値は、前期比+0.5%(年率換算+2.2%)と3期連続のプラス成長となった。内訳をみると、まん延防止等重点措置が解除されたことで、3年ぶりに制限のないゴールデンウィークだったことなどもあり、個人消費が前期比+1.1%となった。その一方、足元の7-9月期についても、制限のない夏休みシーズンであったものの、第7波となり全国的に新型コロナの感染者数が高止まりしている時期であったことから、消費行動に与える影響を注視していきたい。

(折原)

株式市場

■要約&ポイント

- 8月の日経平均株価は前月末比小幅に上昇
- FRB(米連邦準備制度理事会)の金融政策に対する思惑で上下に変動
- 9月の日経平均株価は上昇基調を維持する展開を想定
- 輸出関連企業の今後の業績上方修正への期待に注目

■8月の動き(1日~29日)

～小幅に上昇～

【変動幅】

27,530円

～

29,222円

8月の日経平均株価は小幅に上昇した。米国市場でインフレ指標の鈍化を背景に、FRBによる大幅利上げへの観測が後退したことから、一時年初来高値に迫る上昇となった。ただし、月末のパウエルFRB議長の講演では、利上げを継続し、金利を高い水準で維持する可能性が高いことを示したことから、世界的に株価が下落。日本株も下落し、上昇幅をほぼ打ち消す展開となった。(29日時点での日経平均株価は27,878円、先月末比77円上昇)

■9月見通し

～上昇基調を維持～

【予想レンジ】

26,500円

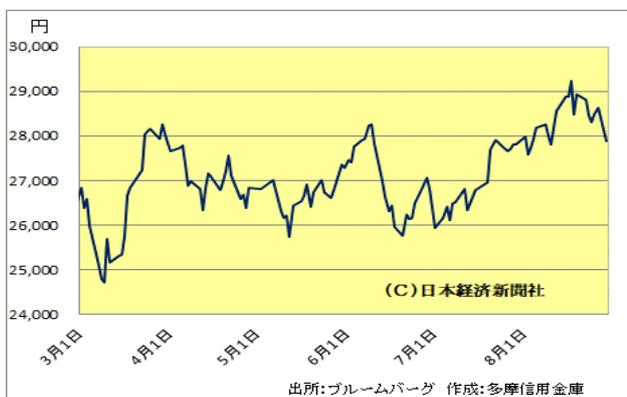
～

30,000円

9月の日経平均株価は上昇基調を維持する展開を想定する。3月期決算企業の第1四半期決算では、国内企業の好業績が確認された。外国為替相場も円安ドル高で推移していることから、輸出関連企業の業績上方修正への期待に注目した買いも見込まれるだろう。足元では、依然として新型コロナ感染の収束が見通せない中ではあるものの、行動制限の緩和により、百貨店売上高がコロナ前の約8割の水準まで回復してきている。経済の正常化が進むことも株価を支える要因となりそうだ。

一方で、8月のジャクソンホール会議以降、FRBの金融政策に対する警戒感が高まっていることから、米国のインフレ動向次第では、世界の株式市場が変調をきたすことも想定される。高値では積極的な買いは手控えられることから、株価の上昇幅は限られるだろう。

【日経平均株価チャート(6か月)】



【日経平均株価チャート(5年)】



(鈴木(康))

J-REIT

■要約&ポイント

- 8月の東証REIT指数は2,000ポイント前半で推移
- 日米金利上昇や不動産市況への警戒感が上値を抑制
- 安定した配当や高い分散効果が東証REIT指数を下支え
- 9月の東証REIT指数は2,000ポイント付近で横ばいの推移を想定

■8月の動き(1日~29日) ~小幅に上昇~

【変動幅】

1,999ポイント

~

2,041ポイント

8月の東証REIT指数は小幅に上昇した。株式市場を中心に、マーケットのセンチメントが改善する中、REITにも資金流入が見られ、小幅に上昇した。一方で高値では利益確定の売り等もあり、上昇幅は限定的であった。
(29日時点での東証REIT指数は2,029ポイント、先月末比8ポイント上昇)

■9月見通し ~2,000ポイント付近での推移~

【予想レンジ】

1,900ポイント

~

2,100ポイント

9月の東証REIT指数は横ばい圏での推移を想定する。オフィス空室率の高止まりや契約賃料の下落傾向など、不動産市況の警戒感を背景に一段の上昇は限られるだろう。また、FRB(米連邦準備制度理事会)の利上げ継続など、米国を中心とした海外の金融政策も上値を重くする要因となろう。

一方で、金利や株価が不安定な動きを見せる中であっても、東証REIT指数はここまで落ち着いた推移を見せている。安定した配当が見込まれることや、他の資産との相関が低く、分散効果が高いことから、今後も一定の需要が見込まれるであろう。そのため、方向感はいくく、2,000ポイント付近での推移が継続するものとする。

【東証REIT指数チャート(6か月)】



【東証REIT指数チャート(5年)】



(森久保)

外国為替

■要約&ポイント

- 8月のドル円相場は円安ドル高の推移
- 8月に発表された米国CPI(消費者物価指数、前年比)は8.5%と前月からは鈍化
- FRBパウエル議長はインフレ抑制のため金融引き締め姿勢を当面維持する方針
- 今後は米国の物価動向とFRB(米連邦準備制度理事会)の金融政策の動向に注目

■8月の動き(1日~29日)

～円安ドル高～

【変動幅】

130円41銭

～

139円00銭

8月のドル円相場は、円安ドル高の推移となった。発表された米国CPIが高水準ながらも市場予想を下回り、前月比で鈍化したことでFRBの利上げペースが緩むとの観測が広がり、一時的に円高ドル安に推移した。ただし、8月後半に行われたジャクソンホール会議でパウエル議長が金融引き締めスタンスを当面の間維持する方針を示したことで、再度利上げ継続観測が高まり円安ドル高に推移した。
(29日時点でのドル円相場は138円72銭、先月末比5円45銭円安ドル高)

■9月見通し

～円安ドル高の推移～

【予想レンジ】

137円00銭

～

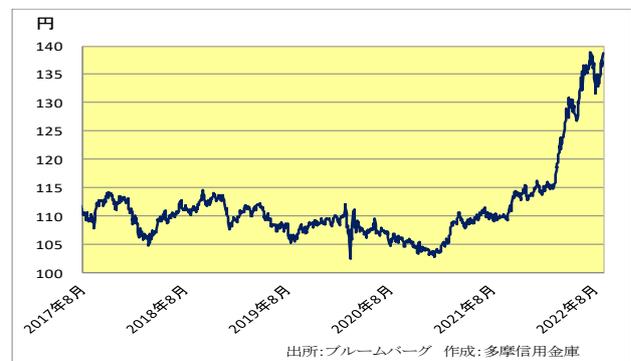
145円00銭

9月のドル円相場は円安ドル高の推移を予想する。
米国のインフレ状況はやや鈍化の兆しが見られるものの、依然として高い水準が続いている状況である。FRBのパウエル議長は8月のジャクソンホール会議でインフレ抑止を最優先課題として、金融引き締めを当面の間維持する方針を示した。そのため、今後更なる利上げを実施することに加え当面の間は高い金利水準を維持するだろう。
一方で日銀の姿勢はFRBとは大きく異なっている。同会議で黒田総裁は世界各国とは異なる日本の経済情勢について説明を行い、現在の金融緩和政策を維持する方針を示したことから、日本の低金利環境は継続する可能性が高い。
以上から、日米の金融政策の方向性は大きく異なっており、日米金利差の大きい期間が当面続く可能性が高く、ドル円相場は円安ドル高の推移を予想する。

【ドル円チャート(6か月)】



【ドル円チャート(5年)】



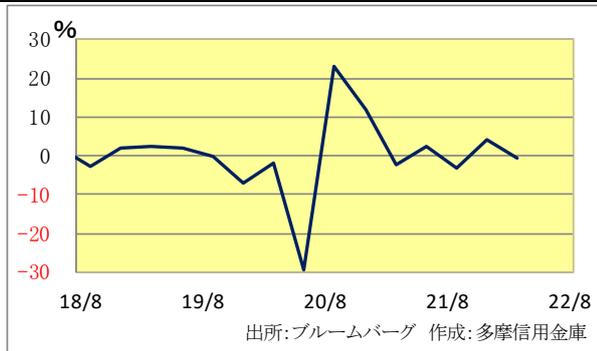
(池上)

日米主要経済指標

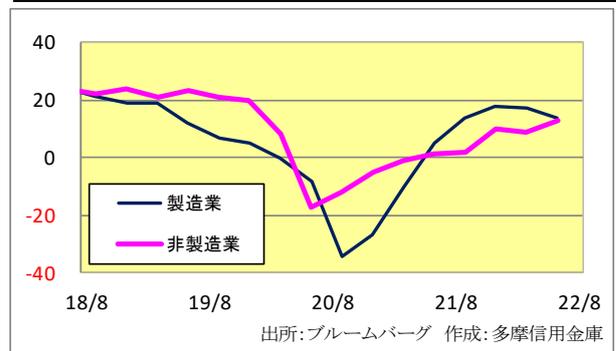
2022年8月29日 現在

(1) 国内経済指標

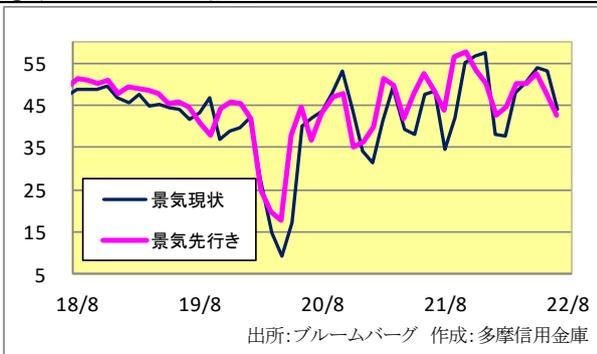
① 実質GDP (前期比・年率)



② 日銀短観・大企業業況判断DI



③ 景気ウォッチャー調査



④ 機械受注統計 (前年比)

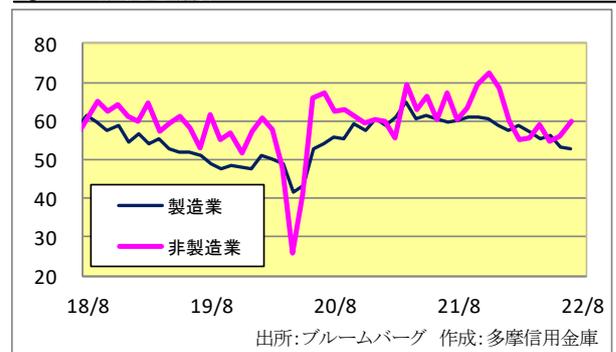


(2) 米国経済指標

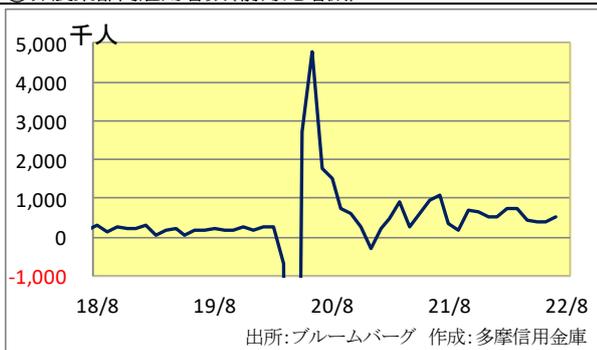
① 実質GDP (前期比・年率)



② ISM景況感指数



③ 非農業部門雇用者数(前月比増減)



④ 新築住宅販売(前年比)



※コロナショックにより過去の結果と大幅な乖離が見られるため下記表示を割愛
2020年4月実績値:▲20,787千人

ご留意事項

- ・本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。
- ・本資料は、信頼できると考えるデータに基づき多摩信用金庫が作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・本資料は記載されたいかなる内容も、将来の市場変動を保証するものではありません。本資料のご利用に関してはご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも多摩信用金庫の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。
- ・本資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的著作権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。